

古典探究 単元指導計画

日時	令和〇年〇月〇日（〇）	場所	3年〇組教室
クラス	3年〇組（〇人）	授業者	〇〇 〇〇
科目名	古典探究	単元名	思想
使用教材	「道徳斉礼」（為政『論語』） 「無為之治」（三章『老子』） 「小国寡民」（八十章『老子』） 「桃花源記」（『陶淵明集』） 「幽明録」	使用教科書	『高等学校 古典探究』 数研出版 『漢文必携 五訂版』 桐原書店
教材観	本単元では、老子の思想を深く探究するために、関連する複数のテキストを比較しながら読むことを試みる。「道徳斉礼」では、孔子が理想とする治世を具体的に学び、それを踏まえて「無為之治」を読むことで、老子が目指した治世の全体像を理解する。その後、「小国寡民」を読むことで、「無為之治」が反映された具体的な社会像を考察することができる。 また、陶淵明の「桃花源記」を取り上げ、「小国寡民」と比較しながら読むことで、老子の思想が影響を与えた理想郷の世界観をイメージさせることができる。最終的に「幽明録」に登場する俗世と隔絶した村と、老子の理想とする社会や「桃花源記」に描かれる理想郷を比較する活動を通じて、生徒が無為自然な社会の具体的なイメージをもてるようにするためにふさわしい教材である。		
生徒観	学習意欲が高く、授業に積極的に取り組む。しかし、中国思想を学ぶのは初めての経験であり、これまで複数のテキストを同時に比較・考察する学習スタイルには馴染みがない。そのため、教材選びには特に配慮し、簡単で取り組みやすいものから始めることが適切だと考える。		
指導観	授業では本文読解を中心に進めていく予定で、生徒それぞれが辞書や資料を活用しながら言葉の意味や文法事項を調べ、自力で読み解く時間を確保する。これにより、個々の理解を深めるとともに、自主的な学びの姿勢を育みたい。また、生徒間での意見交換や、本文の内容に関する質疑応答、発表を取り入れることで、老子の思想の深い理解を促進したい。 また、比較的理解しやすい「道徳斉礼」や「無為之治」から単元を始めることによって、段階的に老子の思想を理解させていこうと考えている。初回の授業で儒家の思想を説明することで、生徒が儒家と老子の思想を比較して理解できるようにし、「無為之治」以降の教材では、前時に学習した内容を踏まえて新たな文章を読解するという流れを作り、老子の思想を無理なく理解できるように支援したい。そして、文章同士の関係を意識させることで、老子の思想についてより深く理解できるようになっていくことを実感させたい。		

I 単元の目標

- （1） 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 [知識及び技能] (1)ア
- （2） 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 [思考力、判断力、表現力等] A(1)カ
- （3） 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

2 単元の言語活動

同じ題材を取り上げた複数の古典作品や文章を読み比べ、思想や感情などの共通点や相違点について論述したり発表したりする。
(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕A(2)イ)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 (1)ア	① 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 A(1)カ	① 複数テキストの読み比べを通して、作品に表れている老子の思想を踏まえ、自分の考えを広げたり深めたりできるように粘り強く取り組む中で、自らの学習を調整しようとしている。

4 指導と評価の計画（全5時間）

次	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
第1次	○単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○「道徳斉礼」を読み、儒家の思想を理解する。	〔知識・技能〕①	「記述の分析」 (学習プリント)
第2次	○「無為之治」を読み、本文の内容や老子の思想の全体像を理解する。	〔思考・判断・表現〕①	「記述の分析」 (学習プリント)
第3次	○「小国寡民」を読み、本文の内容や老子の理想とした具体的な社会を理解する。	〔思考・判断・表現〕①	「記述の分析」 (学習プリント)
第4次 (本時)	○「桃花源記」を読み、陶淵明の理想郷と老子の思想の関連について考える。	〔思考・判断・表現〕①	「発表の観察」
第5次	○「幽明録」を「桃花源記」と比較しながら読むことで、無為自然の具体的なイメージをもつ。 ○単元を通して学習したことや疑問に思ったことをまとめて論述する。	〔思考・判断・表現〕① 〔主体的に学習に取り組む態度〕①	「記述の分析」 (学習プリント、振り返りシート)

【単元の流れ】

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○「道徳斉礼」を読み、儒家の思想を理解する。	・単元目標や学習の流れを説明する。 ・道家の思想と比較できるように説明する。	〔知識・技能〕① 「記述の分析」学習プリント ・記載内容を分析する。

2	○「無為之治」について、前時に学習した孔子の思想と比較しながら読み、本文の内容や老子の思想の全体像を理解する。	・前時の内容とのつながりを簡単に説明し、前時に使った学習プリントを踏まえて学習するように指示する。	〔思考・判断・表現〕① 「記述の分析」学習プリント ・記載内容を点検する。
3	○「小国寡民」について、前時に学習した「無為之治」と比較しながら読み、本文の内容や老子の理想とした具体的な社会を理解する。	・前時の内容とのつながりを簡単に説明し、前時に使った学習プリントを踏まえて学習するように指示する。	〔思考・判断・表現〕① 「記述の分析」学習プリント ・記載内容を分析する。
4 (本時)	○「桃花源記」の内容を読み取り、「無為之治」と比較することで、陶淵明の理想郷と老子の思想の関連について考える。	・前時の内容とのつながりを簡単に説明し、前時に使った学習プリントを踏まえて学習するように指示する。	〔思考・判断・表現〕① 「発表の観察」 ・生徒の発表を観察する。
5	○今まで学んできた老子の思想を踏まえ、「幽明録」を「桃花源記」と比較しながら読むことで、無為自然の具体的なイメージをもつ。 ○単元を通して学習したことや疑問に思ったことをまとめて論述する。	・前時の内容とのつながりを簡単に説明し、前時に使った学習プリントを踏まえて学習するように指示する。 ・評価の項目を記入する際に、授業の振り返りをしながら、客観的に自己評価することを促す。	〔思考・判断・表現〕① 「記述の分析」学習プリント ・記載内容を分析する。 〔主体的に学習に取り組む態度〕① 「記述の分析」振り返りシート ・記載内容を分析する。

《本授業における評価の実際》

5 観点別学習状況の評価の進め方

(1) [知識・技能] の評価

[知識・技能]①の「古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている」状況を、「本文を読み、学習プリントの問題を正しく理解している」姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、学習プリントの記述を分析して評価する。学習プリントの問題を正しく理解していない状況を C と捉え、個別に声をかけて、ヒントとなる本文の記述を示したり、語句の意味をペアで共有したりするよう促す。

(2) [思考・判断・表現] の評価

[思考力、判断力、表現力等]①の「古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている」状況を、「本文の内容に基づいて、自身の考えを論述している」姿（「おおむね満足できる状況」(B)）と捉え、学習プリントの記述を分析して評価する。本文の内容に基づいて、自身の考えを論述していない状況を C と捉え、個別に声をかけて、ヒントとなる本文の記述を示したり、語句の意味をペアで共有したりするよう促す。

(3) [主体的に学習に取り組む態度] の評価

[主体的に学習に取り組む態度]①の「言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている」状況を、「本単元で学習したことを踏まえて、自分の考えを振り返りシートにまとめて論述できている」姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、振り返りシートの記述を分析して評価する。本単元を基にした気づきや学びがまとめられず、努力を要すると判断する状況を C と捉え、振り返りシートの評価項目を参考に、単元を通して気づきや学びがどこかにないか探るよう促す。

6 学習指導案(4時間目/全5時間)

本時の目標：ア 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)カ
 言語活動：「桃花源記」と「無為之治」を読み比べ、「桃花源記」に見られる老子の思想について話し合ったり発表したりする。

本時の展開：

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入 5分	□本時の目標を確認する。	・「桃花源記」の内容を読み取り、陶淵明の理想郷と老子の思想の関連について考えることが目標であることを理解する。	・ 前時欠席した者に対しては、個別に指導する。 ・ なお、学習プリントはMetaMoji Classroomで配布し、「生徒同士で見られる」設定にする。
展開① 15分	□本文を読み、学習プリントに取り組む。	・ 本文を読み、学習プリントの問題に解答していく。問2では第二段落で描かれている村の様子を読み取って、選択肢を記述する。	・ 本時の目標達成に関わる問2に専念させるため、それ以外の問題は比較的短時間で解答できる問題にした。
展開② 25分	□学習プリントの解答をペアで確認する。 □本文の解説を聞く。 ◎陶淵明の理想郷と老子の思想の関連について考える。	・ 学習プリントの解答をペアで確認し、問2の問題に協働して解答したり、クラスメイトが作った問題を見せたりする。 ・ 教員の解説を聞き、学習プリントの解答を確認しながら、本文の内容を理解する。 ・ 前時で学習した「無為之治」の内容を参考にしつつ、陶淵明の理想郷と老子の思想の関連について考え、その後発表する。	・ 操作のわからない生徒には、個別に指示する。 ・ 問2の解説のときに、「他の共同体との関わりを絶った、小さな共同体による平和な暮らし」について触れ、老子の「小国寡民」の村と「桃花源記」の桃源郷が似ていることを生徒に意識させたい。 【目標Aに対する評価規準と評価方法】 規準：陶淵明の理想郷と老子の思想の関連について考え、発表している。 方法：「発表の観察」 〔状況Cに対する手立て〕 ・ 前時の授業の内容を思い出すよう助言したり、説明したりする。
まとめ 5分	□本時のまとめを行う。 □次時の内容を確認する。	・ 教員のまとめを聞く。 ・ 次回は、「桃花源記」と「幽明録」を比較しながら無為自然な社会の具体的なイメージをもつことが目標であることを知る。	

